



小樽市立奥沢小学校 令和7年度 学校経営方針

1. 統合までの経緯

本校は、入船小学校、天神小学校と平成30年4月に学校統合し、その折、新たな学校の教育目標を策定し、新しい学校づくりを目指した。

統合奥沢小学校の学校イメージを話し合った際に出されたキーワードに「夢をはぐくむ」という言葉があった。統合して新しい学校になることは、決してマイナスではなく、新しい学校は社会や世界へとつながり、未来へと続く夢が生まれる場所であってほしい、という思いが共有された。そこで、学校の教育目標を設定するにあたり、「夢をはぐくむ」という大きなテーマを設定した上で、「知」「徳」「体」のバランスが取れた人間形成を目指すことにした。いずれかに偏ることなく、バランスのとれた「知勇兼備」を目指すことを念頭に学校づくりを進めていく。「知」では、「知識・技能」の習得に加え、それをどう使うかという「思考力・判断力・表現力」が求められる。そのために、深く学び、自他の考えを互いに伝えあうことができる子どもの育成を目指す。

新しい学校に期待することで一番多かった回答が「仲の良い学校」であった。「徳」では、自他の命を尊重するやさしい心を持ち、仲よく高め合う関係を築く子どもの育成を目指す。

そして、「知」を生かすことも、「徳」を働かせることも、「体」の健全な成長がなければならない。全ての教育活動の基盤として、たくましい体と、最後までやり抜く心をもつ子どもの育成を目指す。

「夢をはぐくむ奥沢小学校」で学ぶことにより、自立した人間として広い視野を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲をもって、主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばして、人生を切り拓いていく人間、対話や議論を通じて多様な人々と協働できる人間、そして変化の激しい社会の中でも、よりよい人生や社会の在り方を考え、課題を発見し、他と協働して解決につなげていくことができる人間の育成を図り、子どもたち一人一人はもちろんこと、ウェルビーイングな社会の形成を目指していく。

2. 教育目標

夢をはぐくむ 奥沢小学校

深く学び	伝えあう子	(知)
なかよく	やさしい子	(徳)
たくましく	やりぬく子	(体)

3. 学校の教育目標の具体化（目指す子どもの姿）

		知 深く学び 伝えあう子	徳 なかよく やさしい子	体 たくましく やりぬく子
子どもの姿		自ら進んで学び、考え判断（決定）し、表現できる子ども	あいさつをしっかりと、互いのよさを認め合い助け合う子ども	健康や安全に気をつけ、進んで運動し、最後まで粘り強く取り組む子ども
向陽中学校区における 目指す子ども像 (スタンダード)		9年間で身に付けてほしい3「つ」の力 ○自分の言葉で つたえる ～自ら進んで考え、意見を発信できる～ ○仲間と つながる ～他を思いやり、多様な考えを受け入れる～ ○ねばり強く つづける ～困難を乗り越え、たくましく生きる～		
価値		自主性、思考力、創造力、向上心、探求心、創意工夫、積極性、意欲、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力	生命尊重、思いやり、寛容、公共心、自然愛、郷土愛、人間愛、協調性、規範意識、国際理解、責任感、公正公平	健康安全、基本的な生活習慣、明朗快活、整理整頓、根気強さ、忍耐力、意志力、向上心、勤労意欲、責任感、自主性、努力
低学年 (慣れる)	特徴	幼児期からの自己中心性が残る時期であり、児童の思考も具体的で、論理的・抽象的な思考は未成熟である。対人関係も行動範囲が狭く、家庭・学校が中心で集団行動にも未熟な時期である。この時期に集団生活に慣れさせ、集団で行動するための様々な行動様式を身に付けさせることが重要である。また、低学年の後半になると、集団生活における自他との関係を認識することができ、社会性の発達を促す指導が必要である。		
	指標	基礎・基本を身に付け、話をしっかりと聞き、自分の考えを表現したり、互いに学びあうことができる。	学校生活のきまりを知り、友だちと仲良くし、助け合うことができる。	健康や安全に気をつけ、運動を楽しみ、規則正しい生活ができる。自分がやらなければならないことができる。
中学年 (伸ばす)	特徴	少年少女期に入り、集団生活が急速に活発になり、身近な人々の人間関係もわかり自己反省もできるようになる。また、仲間との行動を通して、遊びや生活のルールを決め守るようになる。この時期には、集団生活の中で自己を伸ばすことが重要である。		
	指標	基礎・基本を確実に身に付けるとともに、友だちと協力し、認め合いながら、自分の思いや考えを表現したり学びあったりすることができる。	学校生活のきまりや地域のルールを知り、友だちと互いに理解し合い、信頼し、助け合うことができる。	健康や安全を意識しながら運動習慣を身につけ、節度ある生活を行うことができる。自分でやろうと決めたことは、積極的に取り組み、粘り強くやり遂げることができる。
高学年 (高める)	特徴	自分の行動は自分で決めようとする自律的傾向が強くなってきたり、社会性や情緒面の発達も著しくなる。また、所属集団における自己の役割や責任も自覚するようになるが、集団の質が望ましいものでない場合、反社会的行動へと傾向が表れてくる。この時期には、児童の個性を伸ばし、自己存在感を与え、有用感、成就感を持って自ら励むための力を身に付けさせてやることが重要である。		
	指標	基礎・基本を確実に身に付け、自分の考えを深め、意欲をもって学び合い、自他の関わりを通して高めあうことができる。	学校生活や社会のルールを身につけ、互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し助け合うことができる。	健康や安全面から自分の生活を見直し、運動習慣や基本的な生活習慣を考え、生活することができる。より高い目標を立て、勇気と希望をもって努力を続けることができる。

4. 学校経営の基本的な考え方

人工知能等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられる社会、Society5.0時代の到来と言われ、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」に劇的に変わる状況が生じ、予測困難で変化の激しい時代が目前まできている。また、GIGAスクール構想のもと、児童一人一台端末の利活用等が進み、その活用を通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が求められ、主体的、対話的で深い学びの実現を目指した新しいかたちの学びへと授業改善を進めていかなければならない。

子どもたち一人一人には、このように急激に変化する時代に対応できる「生きる力」を確実に育み、社会の創り手として十分な力を発揮していくことが求められている。そのためには、不易と流行を見極め、全ての子どもたちの可能性を引き出し、誰一人置き去りにしないという強い信念のもと、保護者・地域の期待に応える令和の日本型学校教育を推進していかなければならない。また、「質の高い学校教育を通してよりよい社会を創る」という目標を学校と地域で共有し、子どもたち一人一人のウエルビーイングな社会の実現を目指し「社会に開かれた教育課程」を体現しながら、学校の組織を十分に機能させ、コミュニティ・スクールや小中一貫教育の充実等を図り、社会の変化を見据えた学校・保護者・地域が一体となり「共創」による進化の歩みを止めない学校づくりを目指していく。

5. 付けたい資質・能力

「主体的・協働的に学び続ける力」 「思いやる力」 「やり遂げる力」

6. 向陽中学校区小中一貫教育の推進

自ら学び、よりよく生きる力を持つ児童生徒の育成（15歳の姿をイメージ）

7. 重点教育目標

【 「笑顔・学び・夢」いっぱい 心あったか奥沢の子 】

8. 今年度の目指す具体的な子ども像

- (1)主体的に学び、最後までやり遂げるためには、興味・関心や見通しをもたせながら **意図的・計画的に学びの場を設定し、学び方の自己決定をくり返す中で**、ほめ、認め、価値付け、**自分のよさを実感**させることが必要である。

自ら学び判断(決定)し、考えを伝えながら最後までつづける子ども

- (2)みんなが笑顔で心温かな学校生活を過ごし協働的に学ぶためには、**一人一人が認められていることを実感し、自己存在感、自己有用感、自己肯定感を高め、他者を大切にし他者から大切にされる**ことが必要である。

自分のよさを実感し、互いに認め合い、進んで仲間とつながる子ども

9. 目指す学校像と教師像

学校像	教師像
○学校を開き、新たな時代に対応し、保護者や地域に信頼される学校	○子どもを認め、一人一人のよさを引き出すことのできる教師
◆安全・安心・信頼に応える学校、子どもが主語の学校づくり ◆危機管理体制の充実(組織的・機動的な対応) ◆令和の日本型学校教育の推進 ・ICTの利活用を軸とした個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業改革、新しいかたちの学びの構築 ◆教育DXの推進による教育の質の向上 ※デジタル技術による業務のスリム化、効率化、T・T指導、教科担任制等 ◆小中一貫教育の推進	◆教育者としての誇りと指導技術のある教師 ◆教育公務員としての自覚、責任 ◆ほめる、認める、価値付ける姿勢 ◆温かな対応と毅然とした態度 ◆主体的なスキル&キャリアアップ ◆子どもの居場所をつくる学級・学年経営の推進

10. 学校経営の重点

組織が機能的に自走し、協働的で持続可能な「共創」による学校づくり

キーワード

は・あ・と・ふ・る 奥沢小学校

温かな対応と毅然とした指導

は(話を聞く)・あ(挨拶をする)・と(友だちと仲よくする)・ふ(ふるさとを愛する)・る(ルールを守る)

(1) 子どもが主役（主語）の学校づくり

子どもたち一人一人が自分のよさを実感し自信をもって行動するとともに、互いのよさを認め合いながら、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成をを目指して高め合う学校づくりを推進する。

- ① 「自己決定」を尊重することを通して、一人一人の自己存在感、自己有用感、自己肯定感を高め、自信をもって進んで行動するとともに、最後までねばり強く取り組み、仲間と互いに認め合いながら高めようとする教育活動を意図的・計画的に行う。

※UDL（学びのユニバーサルデザイン）の視点を取り入れた授業づくり

- ② 6(9)年間を見通した「奥沢スタイル」の確立と実践を徹底する。※「奥沢スタイル」は別紙
③ 児童の実態を捉え、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した指導内容、指導体制、指導方法の工夫・改善を図る。

※ DX(デジタルトランスフォーメーション)を視点とした新しい形の学びの推進

(2) 家庭・地域・幼保・中学校と連携する学校づくり

家庭・地域・幼保・中学校と連携を強化し、子どもたちに必要な資質・能力を地域全体で育む。

- ① 学校だよりやHP、安心メール、アンケート、授業参観、保護者会等による積極的な情報発信、情報交換に努める。
② 学校運営協議会や学校支援ボランティアを活性化し、「共創」するコミュニティ・スクールを推進する。
③ 9年間で子どもを育てることを念頭に、係及び地域連携委員会が中心となり、教育課程の接続や一貫した生徒指導等、学校全体として小中一貫教育を組織的に推進する。

(3) 教職員の主体的・協働的な学校運営による保護者や地域の信頼に応える学校づくり

全職員が学校運営を自分事として捉え、参画意識と協働意識を高め自走するとともに、個々の力量の向上及びキャリアアップを図りながら、それぞれの職務に応じた不断の研究と修養に努め、その成果をもとに保護者や地域の信頼に応える学校づくりを進める。

- ① 子どもの居場所のある学級・学年経営を基盤とし、バトンランナーとしての協働意識を高めながら、校内組織の機能化・活性化を図る。
② 新しいかたちの学びの構築及び推進する校内研究に果敢に取り組み、各種研修会等への積極的な参加によって、職員一人一人が資質・能力の向上に努める。
③ デジタル化を中心に据えた業務のスリム化、効率化により、持続可能な質の高い教育の実現を目指す。 ※ 高学年の専科授業、複数体制による指導、交換授業等
④ 各種感染症対策、熱中症対策、交通事故防止等の徹底

11. 具体的な取組（小樽市教育推進計画との関連）

(1) 未来を創る力の育成

※青字は新規目標

施策項目	数値目標・取組
1 確かな学力の育成	数値目標：「国語・算数がわかる」と回答する児童の肯定的割合を90%以上にする。(R6:国語84.4% 算数:82.0%) 【R6評価:B】
① 授業改善の推進	① 端末を主とするICTの有効的な利活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、探究的な学び(課題探究型学習)を通して「主体的・対話的で深い学び」に向けての授業改善を推進する。
② 学力調査の実施と有効活用	① 算数科を柱とした校内研修の充実 ② 各種学力調査等による実態把握と、分析に基づく個に応じた指導による基礎学力の向上及び定着 (学力向上改善プランに基づく取組)

③授業以外の学びの場の設定 ④学習習慣の確立	③朝の時間や放課後、長期休業中を活用した補充学習の推進 ④音読カードやデジタルドリルの活用、「家庭学習のてびき」の配付、啓発資料の配付等による保護者との連携
2 特別支援教育の充実	数値目標：定期的な校内支援委員会や児童の実態交流等を毎月（年12回以上）行う。【新規】
①教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実 ②校内組織の活性化、関係機関との連携	①個別の指導計画、支援計画の整備と活用 ①UD(ユニバーサルデザイン)を意識した環境づくり、学習づくり ②校内支援委員会の活性化、関係機関との連携、教育相談の実施等
3 国際理解教育の充実	数値目標：「外国語(活動)が好き」と回答する児童の肯定的割合を80%以上にする。(R6:68.0%)【R6評価:B】
①外国語科、外国語活動の充実	①外国語専科、退職等外部人材・向陽中学校教諭(ALT)等による指導の充実
4 理数教育の充実	数値目標：「算数が好き」と回答する児童の肯定的割合を80%以上にする。(R6:70.9%)【R6評価:B】
①算数科における個に応じた指導の充実 ②専科教諭による指導の充実	①校内研修と連携した指導方法の改善、個に応じた指導の充実 ①習熟度別少人数指導の充実 ②理科専科教諭による理科教育の充実
5 情報教育の充実	数値目標：「インターネット等の利用に関するルールを決めている」と回答する保護者の割合を85%以上にする。(R6:83.3%)【R6評価:A】
①情報モラル教育の推進 ②プログラミング教育の推進	①情報モラル教室等の実施及び保護者への啓発活動 ②理科・算数・総合的な時間の学習等を活用したプログラミング的思考の育成
6 キャリア教育の充実	数値目標：「将来の夢や目標をもっている」と回答する児童の肯定的割合を85%以上にする。(R6:83.9%)【R6評価:A】
①キャリア教育の推進	①外部講師や地域の施設、人材等を活用したキャリア教育の推進 ①キャリアパスポートの有効活用

家庭、地域にお願いする取組

- 生活リズムの確立(生活リズムチェックシート等)
- 家庭学習(宿題)のサポート

- 家庭学習習慣づくりのサポート
- 放課後や長期休業中等の学習支援

学習支援ボランティアへの登録

(2) 豊かな心の育成

施策項目	数値目標・取組
1 道徳教育の充実	数値目標：「自分にはよいところがあると思う」と回答する児童の自己肯定感の割合を80%以上にする。【新規】
①道徳科の授業の充実 ②人権教育の推進	①自分事として「考え 議論する道徳」の授業づくり ①道徳教育推進教師を中心とした指導計画の作成と評価、指導方法等の充実・深化 ②体験活動や人権教室、情報モラル教室等を活用した教育の推進
2 ふるさと教育の推進	数値目標：外部講師や地域の施設等を活用したふるさと小樽に関する学習を全学年3回以上行う。(R6:年1回→評価A)【更新】
①ふるさと教育の推進	①「わたしたちの小樽」「小樽の歴史」等の活用 ①ガラス製作体験、屋形船乗船体験の推進 ①地域の施設、人材・素材、外部講師などの活用
3 読書活動の推進	数値目標：読書を全くしない児童の割合を15%以下にする。(R6:17.1%)【R6評価:B】
①朝読書・読み聞かせ等の推進 ②学校図書館司書、市立図書館、図書ボランティアとの連携	①読書習慣の育成(朝読書、読み聞かせ、音読、並行読書、図書貸出活動等) ②図書館環境の整備と読書活動の充実(学校図書館司書、市立図書館、図書ボランティアとの連携、活用)

4 体験活動の推進	数値目標：ボランティア活動や体験活動を全学年2回以上行う。 【R6評価：A】
①自然体験活動の推進 ②教育施設・資源を活用した体験学習の推進 ③ボランティア活動の推進	①「おたる自然の村」等と連携した体験学習の実施と地域の公園等の有効活用 ②市立博物館や水族館等の活用、地産志食体験等の推進 ③校舎外清掃（グラウンド）、募金活動等、ボランティア活動の実施
5 コミュニケーション能力の育成	数値目標：「対話を意識した授業づくりをしている」と回答する教師の肯定的割合を95%以上にする。（R6：94.8%）【R6評価：A】
①各教科等における言語活動の充実	①あいさつの徹底指導（あいさつは教職員自ら！） ①意図的・計画的な表現の場づくり（アウトプット重視） ①「対話」を重視した授業づくりの推進と書く活動の充実
6 いじめの防止や不登校児童の支援の充実	数値目標：「学校が楽しい」と回答する児童の肯定的割合を90%以上にする。（R6：90.7%）【R6評価：A】
①いじめ・不登校への対応	①小樽市の取組と連携したいじめ防止キャンペーンの実施（「ほっと」の活用・アンケート調査・標語づくり・あいさつ運動など） ①教育相談の充実及びSC・SSW等、関係機関との連携

家庭、地域にお願いする取組

- 音読カードへの協力、家庭での読書習慣の確立
- 「おたるスマート7」の活用
- 親子での体験活動の実施

- 親子での学校や地域行事への積極的な参加
- 図書ボランティアへの積極的な参加

図書ボランティアへの登録

(3) 健やかな体の育成

施策項目	数値目標・取組
1 体力・運動能力の向上	数値目標：「体育が楽しい」と回答する児童の肯定的割合を95%以上にする。（R6：97.5%）【R6評価：A】
①児童の実態把握と授業改善	①新体力・運動能力テストの実施 ①体力向上改善プランに基づいた授業改善や体力向上の取組の推進 ①長期休業中のチャレンジタイムの実施
2 食育の推進	数値目標：朝食を食べてこない児童の割合を5%以下にする。（R6：2.4%）【R6評価：A】
①望ましい食習慣の育成	①食に関する正しい知識と望ましい食習慣の育成 ①栄養教諭や外部人材を活用した食育の実践 ①知産後食の取組
3 健康教育の充実	数値目標：「早寝・早起き・朝ごはんなど、基本的生活習慣が身に付いている」と回答する保護者の肯定的割合を85%以上にする。（R6：82.4%）【R6評価：B】
①健康保持・増進への指導の充実	①保護者と連携した指導による基本的な生活習慣の定着 ①発達段階に即した健康教育の実施（性や薬物に関する継続した指導や感染症への適切な知識の習得） ①アレルギー対応等の情報共有

家庭、地域にお願いする取組

- 生活リズムの確立（生活リズムチェックシート等）
- 家庭での運動習慣の確立
- 手洗い、うがい、咳エチケット等の習慣化
- 適切な服装等の指導（体育の時間や季節を意識）

- 運動会等への積極的参加
- スキー学習・水泳学習への支援

学習支援ボランティアへの登録

(4) 家庭・地域との連携・協働の推進

施策項目	数値目標・取組
1 家庭教育支援の充実	数値目標：家庭学習を全くしない児童を0%とする。【新規】
①家庭と連携した望ましい生活習慣の確立	①望ましい生活習慣や学習習慣の確立のための啓発活動 ①生活リズムチェックシートの活用

2 学校と地域の連携・協働の推進	数値目標：学校支援ボランティアの活用を25回以上にする。 (R6:15回以上→評価A)【更新】
①積極的な情報発信 ②コミュニティ・スクールの推進	①保護者・地域への情報公開の促進(学校だより、HP、地域公開日など) ②学校運営協議会の開催・運営 ②学校支援ボランティア組織づくりと推進

(5) 学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現

施策項目	数値目標・取組
1 校段階間の連携・接続の推進	数値目標：向陽中学校との連携会議等年2回以上開催する。【新規】
①小中一貫教育の推進 ②幼稚園・保育園との連携	①向陽中学校との連携会議の開催、乗り入れ授業や研究会への相互参加、教育課程等の相互交流の推進 ②幼保との引継等を含めた連携の強化
2 教育環境の整備・充実	数値目標：「端末を活用した授業や校務支援システムの活用を積極的に行っている」と回答する職員の肯定的割合を90%以上にする。 【新規】
①端末、デジタル教科書、デジタルドリル、校務支援システム等の積極的な活用	①端末やデジタル教科書、デジタルドリル、校務支援システム等を積極的に活用し、授業改善や業務改善を図っていく。
3 教職員の資質・能力の向上	数値目標：全教職員が校外の研修会、研究会に年3回以上参加する (R6:年2回以上→評価A)【更新】
①服務規律の保持 ②各種研修の充実	①服務規律保持の徹底(体罰防止や個人情報の保護等、教育公務員としての自覚と責任) ②各種研究会や研修会等への参加と還元の継続
4 学校運営の改善	数値目標：学校運営の改善に参画しようとする教職員の割合を90%以上にする。 【新規】
①勤務時間を意識した働き方改革の推進 ②業務のスリム化・効率化	①ICカードによる勤務時間の実態把握と改善 ①月4回の定時退勤日の設定や長期休業中の閉庁日設定、休暇取得の促進 ②校務支援システムの有効活用 ②業務等の見直しや学校運営組織及び運営方法の更なる改善
5 学校安全教育の充実	数値目標：安心安全に関わる外部機関との連携(避難訓練・交通安全教室・一斉下校日の実施等)を5回以上行う。 【新規】
①安全教育の徹底 ②防犯・防災教室の実施 ③危機管理意識の徹底と組織的・機動的な対応	①各種感染症対策や熱中症対策等の徹底 ①登下校及び校内生活における安全指導の徹底と安全教育の充実 ①校内・校区内の危険個所の実態把握 ②関係機関と連携した各種訓練の実施(火災や地震の訓練、集団下校訓練、不審者対応訓練等) ※安心メールの有効活用 ③危機管理マニュアルの適宜更新とシュミレーションによる内容把握の徹底

家庭、地域にお願いする取組

- 登下校における安全ボランティアへの協力
- 子ども110番への協力

安全ボランティアへの登録

◎おわりに

「教育は出会いである」と言われるが、単に子どもと教師が出会うことではない。互いの心と心がつながり、学び合うことだと考える。この学校での友だちや教師との触れ合い、学習や体験したことなどの全てが必ずや未来に生きる子どもたちの糧となる。

ここ数年、保育と教育の違いについて考えることがある。ある文献によると、「教育は、他人に対して、意図的な働きかけを行うことによって、その人間を望ましい方向へ変化させること。」「保育は、幼児の心身の正常な発育を目的として、幼稚園・保育所・託児所などで行われる養護を含んだ教育作用のこと。」である。保育も教育の一環なのだが、教育の方が意図的・計画的であり、望ましい方向というゴールが明確だという

ことがわかる。私たちは、ただ保護者からお子さんを預かっているわけではない。その日、その日をトラブルもなく問題なく過ごせたからいいというものでもない。

私たちには、義務教育というステージの中で、学校の教育目標の実現というゴールに向けて、意図的・計画的に教育を進め、子どもたちを全国水準に成長させていく義務が課せられている。

保護者の考え方が多様化し子どもたちの成育歴等も違う中、学校教育が難しい局面にさらされる場面があるのも事実であるが、時として、仲間内で互いに弱音や愚痴を吐くことがあってもいいと思う。しかし、そこに留まらず**現状を変えていくためには、それぞれが自分事として捉え、保護者・地域の考えにも耳を傾け「共創」して解決していく**しかない。また、多様化、複雑化し、新たな変革期を迎えた学校教育の中にあっては、自分を見失わないためにできることは、教育の原点に戻ること、そして、学び続けることしかないといえる。子ども、教師、保護者、地域の方々がもっている最高の力を出し合い、「チーム奥沢」が一丸となって、子どもたちにとって学びと成長の喜びがある学校にしていきたい。

よりよい学校づくりを目指して 「信頼と愛情に満ちたあたたかな学校づくり」のために

- 1 情報の共有化 … 教育活動の充実を目指し、報告・連絡・相談の徹底を！
- 2 創意工夫とチームワーク … 児童の健やかな成長のため、協働できる職員集団に！
- 3 検証改善サイクルの迅速化・実質化 … 学校の教育目標の具現化につながる教育実践及びたゆまぬ改善（トライアンドエラーの精神を大切に）
- 4 現状維持は実質的な後退 … 児童及び保護者の困り感に寄り添い、課題に対してスモールステップによる積み上げを！（今より半歩、一歩の前進を）
- 5 公教育としての責任 … 共に育てる観点に立ち、保護者・地域から信頼され魅力ある学校に！
教育のプロとしての自覚と不断の研究と修養、人間力の向上、
そして、魅力ある教職員が創る魅力ある学校へ！